

22. 年少労働集務資料

業務参考資料

アルバイト生徒就労状況調査結果の概要

昭和47年10月

労働省婦人少年局年少労働課

は し が き

婦人少年局年少労働課では、アルバイトをしている
中学・高校生の就労状況を把握するために、昭和46
年10月に「アルバイト生徒就労状況調査」を行なつ
た。

この調査結果の概要が関係行政機関の参考になれば
幸いである。

なお、本調査に御協力をいただいた方々に対し、
深く感謝の意を表する次第である。

昭和47年10月

労働省婦人少年局年少労働課

目 次

I 調査の概要	1
1. 調査の目的	1
2. 調査の範囲および対象	1
3. 調査事項	1
4. 調査対象期間	1
5. 調査実施期間	2
6. 調査機関	2
7. 調査方法	2
II 調査結果の概要	3
1. 学校調査	3
(1) アルバイトについての学校の態度	3
(2) 就労時期別にみた就労生徒の状況	5
2. 個人調査	6
(1) 調査対象生徒数等	6
(2) アルバイトの種類	8
(3) 就労日数	11
(4) 就労時間	12
(5) アルバイトの収入	13
(6) アルバイト収入の使い方	14
(7) アルバイトの疲労感	15
(8) アルバイト中の災害	18

(9) アルバイトの紹介者	19
(10) アルバイトの約束	20
(11) 学校の授業への影響	22
(12) アルバイト継続についての意識	22

I 調査の概要

1. 調査の目的

中学校、高等学校の就学時間外および休日にアルバイトをしている者の把握を行ない、その就労状況を明らかにすることにより、年少者の保護福祉の基礎資料とすることを目的とする。

2. 調査の対象

(1) 学校調査

全国46都道府県における中学校および高等学校

内訳 { 公立中学校(本校) 10058校(回収数9129校)
高等学校(国立、公立、私立の全日制課程)
4187校(回収数3534校)

(2) 個人調査

アルバイト生徒のいる学校 { 中学校200校
高等学校100校 } における

2年生のアルバイト就労者全員 { 中学校(調査人員3567人)
高等学校(調査人員6459人)

3. 調査項目

(1) 学校調査

イ. アルバイトについての学校の態度に関する事項

ロ. アルバイト生徒数、就労時期に関する事項

(2) 個人調査

イ. アルバイトの種類、就労条件に関する事項

ロ. アルバイト収入の使い方に關する事項

ハ. アルバイトの学校の授業への影響に関する事項

ニ. その他

4. 調査対象期間

昭和45年9月1日～昭和46年8月31日までの1年間

5. 調査実施期間

昭和46年9月～10月

6. 調査機関

労働省婦人少年局

7. 調査方法

学校調査 通信自計

個人調査 集合面接又は配票自計

8. その他

本調査におけるアルバイトとは、中学校、高等学校に在学しているものが、学校の授業のないときに、期間の長短を問わず雇用されて労働に従事することをいう。

Ⅱ 調査結果の概要

1. 学校調査

(1) アルバイトについての学校の態度

調査対象となった中学・高校において、在校生徒のアルバイトについての学校の態度をみると、「アルバイトをする時は学校の許可をうけることにしている」が最も多く、中学校において52％、高校においては76.6％である。つぎに多いのは、「アルバイトをすることは生徒の自由であるが届出ることになっている」で、中学校において19.1％、高校11.4％となっている。生徒がアルバイトすることを禁止している学校がかなりあり、中学校で1.7％、高校で6.2％ある。

第1表 アルバイトに対する学校の態度構成比

学校の態度	中 学		高 校	
	実 数	％	実 数	％
総 数	9,129	100.0	3,534	100.0
就 労 禁 止	1,548	17.0	223	6.2
許 可 制	4,764	52.0	2,702	76.6
届 出 制	1,811	19.1	404	11.4
関 知 せ ず	180	1.8	34	1.0
そ の 他 ・ 不 明	826	9.1	171	4.8

「アルバイトをすることは生徒の自由であるので学校は関知していない」はごくわずかみられ、中学校において1.8％、高校において1％である（第1表）。

前述のとおり生徒がアルバイトをするときには、学校の許可を必要とする中学・高校が多い（中学52％、高校76.6％）が、その許可条件は第2表のとおりである。中学・高校ともに「保護者の許可を受けてい

ること」、「学業成績が水準以上であること」を許可条件にあげているものが多く、前者は中学校 2.6%、高校 3.3%、後者は中学 20.2%、高校 25.9%である。

第2表 学校のアルバイト許可条件構成比

(M.A)

許 可 条 件	中 学	高 校
回 答 校 数	100% (4764)	100% (2702)
業務が安全であること	(11.7)	(24.5)
夜間の就業でないこと	(4.0)	(13.1)
風俗営業でないこと	(7.4)	(38.6)
休業期間中であること	(0.9)	(7.0)
継続20日以内であること	(0.1)	(9.7)
健康が良好であること	(10.3)	(3.9)
学業成績が水準以上であること	(20.2)	(25.9)
保護者の許可を受けていること	(26.0)	(33.0)
許可願を提出すること	(9.8)	(9.3)
雇主の申請書を提出すること	(5.5)	(2.7)
収入の使途が健全であること	(11.7)	(24.5)
そ の 他	(11.0)	(37.9)
不 明	(2.5)	(0.7)

注 二以上回答しているものがあるので計は100をこえる。

「風俗営業でないこと」「夜間の就業でないこと」を許可条件としているものは中学よりも高校に多く、それぞれ38.6%、13.1%となっている。「業務が安全であること」「収入の使途が健全であること」は中学・高校ともに相対的に多く、それぞれ中学11.7%、高校24.5%である。

「健康が良好であること」を許可条件としているのは、高校よりも中学に多く、10.3%である。

(2) 就労時期別にみた就労生徒の状況

アルバイトをしている生徒の就労時期をみると、中学・高校ともに夏休みが多く、在校生に対する率をみると中学2.6%、高校9.6%である。一年間をとおして就学日に就労している生徒は中学は2.1%で比較的に多いが、高校は1.1%にすぎない。冬休み、春休みに就労している生徒は中学よりも高校に多く、それぞれ高校在校生の4.7%、2.6%となっている（第3表）。

イ. 地域別にみた就労生徒の状況

第3表 就労時期別就労生徒の在校生数に対する率

夏休み、就学日に就労している生徒の在校生に対する率を地域別にみると、都道府県によってかなり異なった傾向がみられる。すなわち、夏休みに就労している生徒が多いのは、中学においては、高知、北海道、青森が、東京、大阪よりも多い。

就 労 時 期	中 学	高 校
在 校 生 総 数	100.0	100.0
冬 休 み	1.3	4.7
春 休 み	1.2	2.6
夏 休 み	2.6	9.6
就 学 日	2.1	1.1
日 曜 祭 日	1.2	1.1
就労時期不明	0.1	—

高校では高知が多いことは中学と同じであるが、長野、大阪、東京に就労生徒が多く、鳥取、青森、鹿児島は就労生徒が少ない。

年間をとおして就学日に就労している生徒は、中学では高知、北海道、青森、鹿児島などに多く、東京・大阪は少ない。高校においても都道府県によって若干の格差はあるが中学ほどの格差はみられない（第4表）。

第4表 地域別夏休み、就学日における就労生徒の
在校生数に対する率

地 域	夏 休 み		就 学 日	
	中 学	高 校	中 学	高 校
総 数	2.6	9.6	2.1	1.1
東 京	1.1	9.1	0.5	1.1
大 阪	2.4	11.7	1.1	0.5
北 海 道	4.8	9.0	4.1	1.6
青 森	3.3	7.3	3.3	1.5
長 野	2.7	13.3	2.4	1.8
鳥 取	2.8	6.0	2.5	1.2
高 知	7.8	13.4	4.7	0.8
鹿 児 島	2.4	7.4	2.7	0.7

第5表 就労時期、性別就労生徒構成比

就 労 時 期	中 学			高 校		
	総 数	男	女	総 数	男	女
冬 休 み	100.0	85.6	14.3	100.0	50.2	49.6
春 休 み	100	87.6	11.0	100	64.8	35.2
夏 休 み	100	80.9	19.0	100	52.0	37.6
就 学 日	100	89.5	10.4	100	76.8	23.0
日 曜 祭 日	100	86.2	13.7	100	60.8	39.1
就労時期不明	100	84.3	10.1	100	53.2	26.4

注 男女別不明があるために、男女計が100にならない。

ロ. 性別にみた就労生徒の状況

中学において、就労している生徒は各時期をとおして男子が圧倒的に多く、女子は総数の1割～2割にすぎず、女子が就労している割合が最も多い夏休みであっても19％である。

高校においては中学とはかなり異なり女生徒の就労が多くなっており、夏休みで37.6％、冬休みは49.6％、就学日においても23.3％が就労している（第5表）。

2 個人調査

(1) 調査対象生徒数等

個人調査の対象となった就労生徒の実人員数は、中学生3,567人、高校生6,459人である。このら生徒の調査期間1年間における就労している時期をみると、中学生と高校生では異なっており、中学生は毎日働くものが多く（41.2％）、つぎが「夏休み」（32.0％）であるが、高校生では「夏休み」が最も多く46.0％で、「冬休み」（24.2％）がつぎに多くなっている（第6表）。

第6表 就労時期別調査対象生徒数及び構成比

項 目	中 学 生		高 校 生	
	実 数	％	実 数	％
総 件 数	4,351	100.0	10,442	100.0
毎 日	1,797	41.2	595	5.7
日曜・祭日	590	13.6	526	5.2
夏 休 み	1,390	32.0	4,808	46.0
冬 休 み	273	6.3	2,537	24.2
そ の 他	301	6.9	1,976	18.9

注 調査対象実人員数は中学生3,567人、高校生6,459人であるが、1人で2件以上就労しているものがあるので総件数と実人員(総数)は一致しない。

(2) アルバイトの種類

調査時期(昭和45年9月1日～昭和46年8月31日)に、中学・高校生が従事したアルバイトの総件数について、仕事の種類をみると、第7表に示すとおりである。中学生と高校生ではかなり異なった傾向がみられ、中学生では配達が多く約半数であるが、高校生では製造工、販売店員、配達、土木工事に分散しており、それぞれ1割～2割となっている。中学生が多く従事している配達のなかで、最も多いのは新聞配達である。

第7表 仕事の種類、性別、アルバイト件数構成比

仕事の種類		中 学 生			高 校 生		
		総数	男	女	総数	男	女
総	件 数	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
配 送	小 計	46.7	56.1	17.5	14.2	19.7	1.7
	新 聞	35.3	43.2	11.2	3.0	4.2	0.3
	牛 乳	8.6	9.9	9.9	1.0	1.3	0.2
	郵 便	0.3	0.3	0.3	4.4	6.1	0.6
	そ の 他	2.5	2.7	2.7	5.8	8.2	0.6
製 造 工		6.4	5.6	8.9	21.0	20.5	22.0
販 売 店 員		6.5	4.0	14.3	17.2	11.5	30.1
飲 食 店 員		2.2	0.8	6.3	6.9	3.0	15.6
事 務 員		0.3	0.1	0.8	3.7	1.3	9.1
土 木 工 事		2.7	3.5	0.1	13.7	19.7	0.3
農 作 業		8.5	6.6	14.4	1.6	1.6	1.6
そ の 他		26.7	23.2	37.7	21.7	22.7	19.6

注 1人で2件以上就労しているものがあるので調査対象実人員とアルバイト件数は一致しない。

性別にみると、中学生においては男子は配達が圧倒的に多く56%であるが、女子も配達(17.2%)は多いが、農作業(14.4%)、販売店員(14.3%)が比較的多くなっている。高校生では、男子は製造工(20.5%)、配達(19.7%)、土木工事(19.7%)が多いが、女子は、販売店員(30.1%)、製造工(22%)、飲食店員(15.6%)に多くなっており、男女間において職種に相異がみられる。

イ. 毎日・日曜祭日に働く場合

毎日アルバイトするものの種類をみると、中学生では配達が圧倒的に多く、そのなかでも新聞配達(78.3%)が多く、つぎが牛乳配達(18.6%)である。高校生においても配達が約7割で、その多くが新聞配達(48.2%)であるが、販売店員(10.9%)、製造工(4.5%)として働いているものが、かなりいる。

第8表 毎日及び日曜祭日における職種別アルバイト件数構成比

仕事の種類		中学生		高校生	
		毎日	日曜・祭日	毎日	日曜・祭日
総	件数	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
配 達	小計	98.1	2.4	69.7	3.6
	新聞	78.3	1.4	48.2	0.4
	牛乳	18.6	0.3	13.4	0.2
	郵便	0.1		0.3	1.0
	その他	1.1	0.5	7.8	2.1
製造工			2.0	4.5	5.9
販売店員		0.7	4.9	10.9	21.7
飲食店員			1.9	2.5	11.2
事務員			0.2	0.2	3.6
土木工事			2.0		9.5
農作業			24.1	0.2	2.3
その他		1.2	62.5	11.9	42.2

注 第7表注参照

日曜・祭日に働く場合の仕事の種類をみると、中学生は農作業（24.1%）、販売店員（4.9%）が比較的多くなっているが、高校生では販売店員（21.7%）、飲食店員（11.2%）、土木工事（9.5%）の順となっている。中学生、高校生ともに、日曜祭日に働くものと、毎日働くものとは仕事の種類にはかなり異なった傾向がみられる（第8表）。

ロ、夏休み・春休みに働く場合

夏休みに働くもので最も多いのは、中学生では農作業（13.6%）で、つぎが配達（12.7%）、製造工（11.7%）、販売店員（10%）の順となっている。高校生は中学生にくらべると若干異なった傾向がみられ、最も多いのは製造工（25.5%）で、つぎが土木工事（15.9%）、販売店員（14.9%）飲食店員（8.1%）である。

冬休みに働くものについてみると、中学生、高校生ともに夏休みに働くものとは仕事の種類が異なっている。中学生では、販売店員（27.1%）製造工（22%）、配達（11.7%）が多く、高校生では販売店員（

第9表 夏・冬休みにおける職種別アルバイト件数構成比

仕事の種類		中 学 生		高 校 生	
		夏休み	冬休み	夏休み	冬休み
総	件 数	100.0 %	100.0 %	100.0 %	100.0 %
配 達	小 計	12.7	11.7	7.2	23.1
	新 聞	6.4	1.8	0.2	0.1
	牛 乳	2.2	0.4	0.3	0.0
	郵 便	0.6	1.5	1.1	14.2
	そ の 他	3.6	8.1	5.5	8.7
製 造 工		11.7	22.0	25.5	15.8
販 売 店 員		10.0	27.1	14.9	25.9
飲 食 店 員		3.7	6.6	8.1	5.5
事 務 員		0.5	0.7	4.0	3.4
土 木 工 事		5.3	3.7	15.9	6.7
農 作 業		13.6	0.7	1.9	0.7
そ の 他		42.5	27.5	22.5	19.0

注 第7表注参照

25.9%)、配達(23.1%、うち郵便—14.2%)、製造工(15.8%)である。冬休みにおいては高校生のアルバイトのなかで郵便配達がかなり多いが、これは年賀ハガキの配達ではないかと推測される(第9表)。

(3) 就労日数

アルバイトをしている生徒の就労日数についてみると、毎日働いている場合は、中学生のほうが高校生よりも長期間働いているものが多い。

第10表 アルバイト年間当たり就労日数構成比

— 毎日働くもの —

就労日数階層	中 学 生	高 校 生
総 件 数	100.0 %	100.0 %
30日～ 50日未満	7.1	15.6
50日～100日未満	15.7	18.7
100日～200日未満	21.6	18.5
200日～300日未満	10.9	8.6
300日 以 上	40.5	29.9
不 明	4.2	8.7

すなわち、300日以上働いているものは中学生は40.5%であるが、高校生では29.9%で、100日未満は中学生22.8%に対し、高校生は34.5%である(第10表)。

夏・冬休みに働く生徒の就労日数は毎日働くものとはことなり、中学生は高校生よりも就労日数が短いものが多い。夏休みについてみると、中学生の53.8%が10日未満の就労でこのうちの多くが5日未満(31.2%)であるが、高校生は10日～20日未満が最も多く(40.2%)、20日～30日未満27.4%となっており、10日未満は22.2%にすぎない。

(注)

第11表 アルバイト就労日数構成比

— 夏・冬休み、日曜祭日に働くもの —

就労日数階層	中 学 生			高 校 生		
	夏休み	冬休み	日曜・祭日	夏休み	冬休み	日曜・祭日
総 件 数	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
5 日 未 満	31.2	33.0	61.9	7.4	8.0	39.2
5日～10日未満	22.6	42.1	15.1	14.8	38.4	26.6
10日～20日未満	24.4	20.9	12.4	40.2	45.7	13.1
20日～30日未満	10.3	2.6	3.9	27.4	5.4	5.5
30日～50日未満	9.1	/	3.2	8.8	(30日) 以上 0.8	4.9
50日 以 上	0.6		1.0	0.2		3.6
不 明	1.9	1.5	2.5	1.2	1.7	7.0

注 夏・冬休みについては各期あたり、日曜・祭日については年間の就労日数

冬休みでは、中学生の75.1%が10日未満の就労であるが、高校生では10日未満は46.4%で、10日～20日未満が多く45.7%である。

日曜・祭日に働くものの就労日数は、中学生は1年間のあいだに5日未満が61.9%であるが、高校生は39.2%である(第11表)。

(4) 就労時間

第12表 1日当たり就労時間構成比

— 毎日働くもの —

就労時間階層	中 学 生	高 校 生
総 件 数	100.0 %	100.0 %
1 時 間 未 満	35.7	11.9
1～2時間未満	50.1	38.8
2～3時間未満	11.9	24.4
3 時 間 以 上	2.1	23.9
不 明	0.1	1.0

1日当たり就労時間をみると、第12表にみるように中学生よりも高校生のほうが、就労時間の長いものが多いになっている。

毎日働くものについてみると、中学生では2時間未満の就労生徒が圧倒的に多く85.8%であるが、高校生では2時間未満は50.7%

で、3時間以上就労しているものは中学生2.1%に対し、高校生では23.9%である(第12表)。

第13表 1日当たり就労時間構成比

— 夏・冬休み・日曜祭日に働くもの —

就労時間階層	中 学 生			高 校 生		
	夏休み	冬休み	日曜・祭日	夏休み	冬休み	日曜・祭日
総 件 数	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
8時間未満	63.2	49.1	69.5	56.4	55.4	56.8
8時間以上	35.1	*49.4	30.0	42.5	43.8	42.0
不 明	1.7	1.5	0.5	1.1	0.9	1.1

注 *印はサンプル数が少ないので取扱上注意を要する。

夏・冬休みに働くものについてみると、中学生・高校生ともに過半数のものの1日当たり就労時間は8時間未満といえる。しかし、8時間以上働いているものがかなりおり、中学生、高校生ともに約3割～約4割である。

(5) アルバイト収入

アルバイト収入については記入しないものが多く、かつ、賃金形態が時

第14表 1月当たりアルバイト収入構成比

— 毎日働くもの —

収 入 階 層	中 学 生	高 校 生
月当たりで支払われるものの数	100.0% (1386人)	100.0% (281人)
5000円 未 満	73.3	31.6
5000円～6000円未満	7.8	13.2
6000円 以 上	15.7	36.3
不 明	3.2	18.8

間給、日給、月給、一件数当たり〇円など多種多様であるが、毎日働くものについて一応月単位で支払われていると答えたものについてみると第14表のとおりである。中学生では5000円未満が多く73.3%であるが、高校生は5000円未満は31.6%にすぎず、6000円以上が36.3%である。

(6) アルバイト収入の使い方

アルバイトで得た収入はどのように使っているであろうか。第15表に

第15表 アルバイト収入の使い方構成比

項 目	中 学 生	高 校 生
総 件 数	100.0 %	100.0 %
家 計 費	4.1	2.0
授 業 料 等	1.5	2.8
将来のための貯金	24.8	13.5
こ づ かい	34.1	38.3
ほしいもの購入	33.1	35.1
そ の 他	2.2	7.0
不 明	0.1	1.3

示すとおり、中学生、高校生ともに家計費、授業料等の不足を補うことにあてているものは少なく、こづかい(中学生34.1%、高校生38.3%)、ほしいものの購入(中学生33.1%、高校生35.1%)が多く、将来のための貯金がこれにつ

いでいる。

アルバイト収入で「ほしいものを買いたい」と答えたものに、「何が買いたいのか」具体的に記入してもらったところ、衣服類と答えたものが圧倒的に多く、第1位である。つぎに多いのは、オートバイ、バイクなどの乗物類で、レコード、ギターなど楽器、ラジオ、本、参考書類、カメラ、スポーツ用品などがほしいといっているものが多い。中学生と高校生とでは、異なった傾向がみられ、学用品は中学生に多く、オートバイ、バイクは高校生に多い。また性別にみても相異がみられ、乗物類、楽器類、スポーツ用

品などがほしいというものは男子に多く、女子は少い(第16表)。

第16表 ほしいものの種類の順位と指数

総数の 順 位	項 目 (ほしいもの)	計	中 学		高 校	
			男	女	男	女
1	衣 服 類	100	100	100	100	100
2	オートバイ、バイク	31.7	—	—	94.3	0.5
3	レ コ ー ド	26.7	38.9	6.5	49.7	8.9
4	ラ ジ オ	21.1	47.0	3.2	39.5	1.3
5	ギ タ ー	18.8	26.8	4.8	54.4	11.2
6	本、参考書類	16.4	24.8	17.7	29.3	8.9
7	カ メ ラ	14.0	25.5	5.6	24.3	3.6
8	ス ポ ーツ 用 品	13.8	49.0	11.3	13.5	1.5
9	自 転 車	11.5	65.1	4.0	3.0	0.8
10	ス テ レ オ	11.1	19.5	0.8	23.4	0.8
11	学 用 品	11.0	31.5	27.4	4.5	3.6
12	テープレコーダー	9.4	21.5	3.2	15.9	1.3
13	ス キ ー 用 品	6.9	9.4	0	12.9	3.0
14	時 計	5.7	16.1	3.2	4.5	3.6
15	釣 具	5.5	24.2	0	5.7	0

注 アルバイト収入で「ほしいものを買いたい」と答えたものに、具体的な品名の記入を依頼したところ、68種類にのぼった。このうち15位までの順位を第1位を100とする指数で掲載した。

(7) アルバイトの疲労感

アルバイトが生徒の健康にどのような影響を与えているかを知るために、就労している生徒の疲労状況についてたずねることとした。

毎日就労している生徒についてみると、半数以上のものは何とも感じていないと答えている（中学生62.9％、高校生50.4％）。しかし、ややつかれるというものもかなりおり、中学生では32.1％、高校生では38.6％である。アルバイトにつかれを感じるものは高校生に多く、非常につかれると答えているものは中学生では2.3％に対し、高校生は5.4％となっている。仕事の種類別にみると、同じ配達をしているものであっても新聞配達と牛乳配達とでは異なる傾向がみられ、前者につかれを訴えるものが多く、中学生、高校生ともに同様の傾向がみられる。ところで、高校生だけについてみると、販売店員として働いているもののほうが、配達をしているものよりもつかれを訴えるものが多く、非常につかれるものは配達3.3％、販売店員13.8％、ややつかれるものは配達31.5％に対し、販売店員42.5％である（第17表）。

第17表 毎日就労する生徒の職種別疲労感構成比

項 目		総 数	配 送			販売店員
			小 計	新 聞	牛 乳	
中 学 生	総 件 数	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
	非常につかれる	2.3	2.3	2.3	1.5	
	やや つかれる	32.1	31.6	33.2	25.2	
	何とも感じない	62.9	63.5	61.9	70.3	
	そ の 他	2.4	2.2	2.3	2.1	
高 校 生	不 明	0.4	0.4	0.3	0.9	100.0
	総 件 数	100.0	100.0	100.0	100.0	
	非常につかれる	5.4	3.3	3.4	2.3	
	やや つかれる	38.6	31.5	33.6	23.6	
	何とも感じない	50.4	58.2	57.5	61.2	
生	そ の 他	3.3	4.7	3.4	10.6	1.1
	不 明	2.4	2.3	2.1	2.3	
						3.3

つぎに、夏休みに就労するものについて疲労の状況をみると、毎日就労しているものよりも疲労感を訴えるものが多く、中学生、高校生ともに過半数以上のものがかかるといっている。すなわち、非常にかかるものは、中学生8.1％、高校生14.5％で、ややかかるものは中学生51.6％、高校生54.4％である。

仕事の種類別に疲労の状況についてみると、最も疲労を訴えているものが多いのは、中学生・高校生ともに土木工事で、ついで多いのは、製造工である。疲労を何とも感じないというものは、配達に多く、中学生46.3％、高校生38.0％を占めている（第18表）。

第18表 夏休みに就労する生徒の職種別疲労感構成比

項 目		総 数	配 達	製 造 工	販 売 店 員	飲 食 店 員	土 木 工 事	農 作 業
	総 件 数	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
中 学 生	非常にかかる	8.1	4.5	14.7	3.6	1.9	23.3	7.4
	ややかかる	51.6	45.8	47.2	51.1	60.9	47.9	51.9
	何とも感じない	38.0	46.3	37.4	44.6	37.2	28.8	37.6
	そ の 他	1.3	1.7	0.6	0.7			2.1
	不 明	1.0	1.7					1.1
高 校 生	総 件 数	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
	非常にかかる	14.5	12.2	17.1	10.0	15.1	20.6	14.5
	ややかかる	54.4	46.4	57.6	59.8	54.4	54.2	58.5
	何とも感じない	28.8	38.0	23.2	28.6	27.7	23.0	27.0
	そ の 他	0.9	1.2	0.8	0.4	1.3	0.8	
	不 明	1.3	2.3	1.3	1.1	1.5	1.4	

注 *印についてはサンプル数が少ないので取扱は注意を要する。

(8) アルバイト中の災害

アルバイトをしているときに何らかの災害をうけたものがどの程度いるかについてみると、アルバイトに従事した実人員に対する被災者の率は中学生では4.8%、高校生は4%である。性別にみると、アルバイト中に災害をうけたものは、中学生、高校生ともに男子に多く、中学生では男子5.7%、女子1.8%、高校生では男子4.9%、女子2.4%となっている。

これら災害をうけたものが全治するまでの日数は、中学生、高校生ともに5日未満が最も多く、被災者数に対する構成比はそれぞれ55.4%、45.8%を占めており、5日～10日未満がこれにつぎ、中学生27.6%、高校生33.5%である。ところで、全治するまでに1カ月以上かかっているものが、中学生で2.9%、高校生で3.8%いることについては考慮すべきことであろう(第19表)。

第19表 災害率及び全治日数構成比

災害率・全治日数階層		中学生	高校生
災 害 率 (実 人 員)		4.8%	4.0%
		(170人)	(260人)
全 治 日 数	被 災 者 数	100.0%	100.0%
	5 日 未 満	55.4	45.8
	5 日 ～ 1 0 日 未 満	27.6	33.5
	1 0 日 ～ 1 月 未 満	10.0	13.1
	1 カ 月 以 上	2.9	3.8
	不 明	4.1	3.8

注 アルバイト中に被災した生徒のアルバイト
従事実人員に対する率を災害率とした。

ところで、事業場におけるアルバイト生徒に対する安全指導の状況を知るために、現場でアルバイトをしたことのある生徒だけを対象に「機械や材料等の取扱いについて、安全に仕事ができるように指導がありましたか」の質問をしたところ、「指導があった」と答えているものは、中学生32.9%、高校生50.6%である。「指導がなかったと答えたものが、中学生8.8%、高校生15.6%おり、事業場の安全管理がアルバイト生徒には徹底していない側面がうかがわれる。(第20表)。

第20表 現場作業者の安全指導状況構成比

項 目	中 学 生	高 校 生
現 場 作 業 者 数	100.0%	100.0%
指 導 が あ っ た	32.9	50.6
指 導 が な か っ た	8.8	15.6
不 明	58.2	33.7

(9) アルバイトの紹介者

アルバイトの紹介は誰がしているかについてみると、中学生・高校生ともに友人が最も多く、つぎが家族、自分、知人が多くなっている。中学生では、友人(34.8%)について多いのは、家族(19.6%)、知人(19.1%)で自分で仕事をみつけたというものは第四位であるが、高校生では友人(28.6%)のつぎに多いのが自分で仕事をみつけたもの(22.7%)で、つぎが家族(19.4%)、知人(17.6%)となっている。

先生や公的機関にアルバイトを紹介してもらっているものはわずかであるが、中学生よりも高校生のほうが若干多い(先生—中学生3.6%、高校生4.8%、職業安定所—中学生0.4%、高校生1.4%)。

性別にみると、中学生、高校生の男女ともにアルバイトの紹介者は友人というものが最も多いが(中学生—男子36.3%、女子30.4%、高校生

一男子27.9%、30.2%）、こまかくみると男子と女子とでは少し異なった傾向がみられる。つまり、自分でアルバイトをみつけるものは、中学生、高校生ともに男子が多く（中学生一男子18.5%、女子10.1%、高校生一男子24.8%、女子17.9%）、先生が紹介者となっているものは中学生、高校生ともに女子に多い（中学生一男子3.0%、女子5.6%、高校生一男子4.2%、女子6.3%）（第21表）。

第21表 アルバイトの紹介者構成比

項 目	中 学 生			高 校 生		
	総 数	男	女	総 数	男	女
総 件 数	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
家 族	19.6	16.9	27.8	19.4	19.7	18.7
友 人	34.8	36.3	30.4	28.6	27.9	30.2
知 人	19.1	19.1	19.0	17.6	17.2	18.6
先 生	3.6	3.0	5.6	4.8	4.2	6.3
自 分	16.5	18.5	10.1	22.7	24.8	17.9
職業安定所	0.4	0.3	0.5	1.4	1.1	2.1
そ の 他	5.8	5.6	6.5	4.6	4.2	5.6
不 明	0.3	0.3	0.1	0.9	0.9	0.6

10 アルバイトの約束

アルバイトをはじめるときに、賃金、仕事の内容、労働時間について事業主ととりきめた契約が、実際に働きはじめてみると異なっていたかどうかについて質問したところ、大まかについて約8割のものは約束どおりであったと答えている。第22表に示すとおり、約束どおりであったというものは、三項目にわたって中学生よりも高校生に多く、賃金では中学生81.4%、高校生88.5%、仕事の内容では中学生87.1%、高

校生 9 1.1 %, 労働時間は中学生 8 0.1 %, 高校生 8 5.2 %である。しかし、約束どおりでなかったというものも中学生よりも高校生に多く、賃金では中学生 5 %に対し高校生 7.7 %, 仕事の内容では中学生 2.5 %に対し、高校生 4.7 %, 労働時間は中学生 5 %に対し高校生 1 1.3 %となっている。ここで注目されるのは、アルバイトをするときに、何のとりきめもせず、したがって約束をすることなしに働きはじめているものがあることで、しかも、中学生に約束なしに働いているものか高校生よりも多い。約束なしに働いているものは、賃金については中学生 1 3.1 % (高校生 2.1 %), 仕事の内容については中学生 9.9 % (高校生 2.5 %), 労働時間は 1 3.4 % (高校生 1.7 %) となっている (第 22 表)。

第 22 表 アルバイトの約束についての構成比

項 目		中 学 生	高 校 生
総 数		% 100.0	% 100.0
賃 金	約 束 ど お り	8 1.4	8 8.5
	約束どおりでなかった	5.0	7.7
	約束をしなかった	13.1	2.1
	不 明	0.4	1.7
仕 事 の 内 容	約 束 ど お り	8 7.1	9 1.1
	約束どおりでなかった	2.5	4.7
	約束をしなかった	9.9	2.5
	不 明	0.5	1.8
労 働 時 間	約 束 ど お り	8 0.7	8 5.2
	約束どおりでなかった	5.0	1 1.3
	約束をしなかった	1 3.4	1.7
	不 明	0.8	1.8

⑪ 学校の授業への影響

アルバイトをしたために、学校の授業を欠席あるいは遅刻した生徒は総数のなかでどの位いたかをみると、第23表に示すとおり、中学生は7.3%、高校生は3.4%である。中学生では授業を欠席したものより遅刻したものが多く（欠席22.1%、遅刻75.2%）、高校生ではむしろ欠席したもののほうが多い（欠席52.1%、遅刻42.0%）。

性別にみると、欠席・遅刻などを行っているものは中学生、高校生ともに男子に多く、中学生では男子8.6%に対して女子3.3%、高校生は男子4.4%であるが女子は1.3%である（第23表）。

第23表 授業欠席者等の率及び構成比

項 目		中 学 生			高 校 生		
		総 数	男	女	総 数	男	女
総数に対する欠席者等の率 （欠席者等の実人員）		7.3% (262人)	8.6% (234人)	3.3% (28人)	3.4% (219人)	4.4% (187人)	1.3% (29人)
構 成 比	欠 席 者 等 の 総 数	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
	欠席したことがある	22.1	18.8	50.0	52.1	50.3	62.1
	遅刻したことがある	75.2	78.6	46.4	42.0	43.9	34.5
	そ の 他	2.7	2.6	3.6	5.0	4.8	3.4
	不 明				0.9	1.0	

⑫ アルバイト継続についての意識

今後もひきつづきアルバイトをするかどうか質問したところ、「この一年間位の量でよい」からひきつづきアルバイトをつづけたいというものが多く、中学生は39.4%、高校生の46.5%となっている。つぎに多いのが「もっと量をふやしたい」というもので、中学生は24.9%、高校生31.9%である。

第24表 アルバイト継続意識構成比

項 目	中 学 生	高 校 生
総 数	100.0%	100.0%
量をふやしたい	24.9	31.9
この一年間位の量でよい	39.4	46.5
量をへらしたい	4.4	6.2
や め た い	18.5	7.7
そ の 他	10.8	5.9
不 明	2.0	1.9

ところで、「アルバイトはやめたい」と思っているものがかなりおり、とくに中学生に多く18.5%、高校生では7.7%である(第24表)。

